

JICA開発大学院連携 地域理解プログラム



地域の開発経験に学ぶ

JICAは、JICA開発大学院連携プログラム(JICA-DSP)の一環として、主に日本の大学院に在籍するJICA留学生を対象に、日本の郷土史や開発経験を学ぶさまざまな「地域理解プログラム」を提供しています。

地域理解プログラムは、日本各地で培われてきた地域特有の開発事例を題材とし、地域に根差した具体的な開発事例を学ぶことで、JICA留学生が日本の開発経験に対する理解を深めることを目的としています。また、地域特有の開発事例*からの学びを通じて、その開発過程での多様なアクターによる協働体制や経緯を理解すると共に、自らの研究活動と当該地域における開発経験との繋がりを探ることで、その学びを母国の開発にも活かしていくことが期待されています。

本プログラムでは、関連施設の視察や体験のみならず、開発事例の歴史的考察・講義、参加者間でのディスカッション・ワークショップの開催を予定しており、より実践的な知識や経験を得ることができます。

※題材とするテーマは、日本各地の近代化の経験だけでなく、高齢化社会など課題先進国としての日本の開発課題も含まれます。

JICA国内機関

本プログラムはJICAの国内機関が企画・運営をしており、主に管轄地域の大学に在籍するJICA留学生を対象として実施しています。



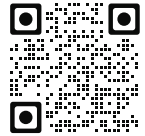
- 各プログラムを所管する国内機関
- JICA北海道 (帯広・札幌)
 - JICA東北
 - JICA筑波
 - JICA東京
 - JICA横浜
 - JICA北陸
 - JICA中部
 - JICA関西
 - JICA中国
 - JICA四国
 - JICA九州
 - JICA沖縄

多様なプログラムを実施中

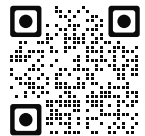
～各地のプログラム事例～



北海道十勝地方：十勝農業、リーダーの系譜～受け継がれる開拓精神～
十勝地域の特徴である農業、その発展の裏には強力なリーダーの存在があった。現代の地域農業を強力に牽引するリーダーによる言葉から紐解く。

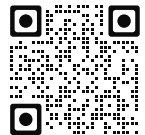


岩手県西和賀町：岩手県沢内村の経験に学ぶ UHC の取り組み『誰も取り残さない村づくり～命を未来につなぐ地域保健』
昭和 30 年代（1960 年代前半）に豪雪、貧困、多病の三悪に苦しめられてきた岩手県沢内村（現・西和賀町）が新しい村長の下で、日本で初めての乳児死亡ゼロなどの地域包括医療の実現を果たした。その日本のレガシーに迫る。



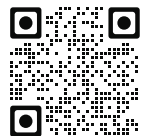
新潟県佐渡市：トキと共生する佐渡の里山と文化芸能

佐渡独自の歴史や、日本産トキの絶滅をきっかけとする生物多様性農業の推進を通じた環境保全と農業の両立への取り組み、そして島独自の文化を活かした地域創生について学ぶ。



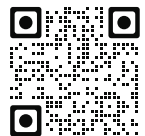
神奈川県横浜市：日本の水道事業～横浜からの歩み

1859 年の横浜開港当時、わずか 100 戸ほどの一寒村であった横浜が、国内初の近代的な水道施設を敷設する。英国人技師を顧問に迎え、1885 年の建設着手から、1887 年の給水開始に至るまでの横浜水道の技術開発の歴史を学ぶ。



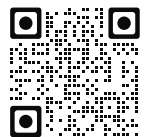
琵琶湖：琵琶湖をめぐる開発と保全の教訓

日本最大の湖であり、関西の 1400 万人の人口を支える重要な水源である琵琶湖。水環境の開発（治水・疎水）のみならず、1970 年代後半の「石けん運動」に代表される環境保全や市民運動など、長きにわたる開発の歴史からの教訓を学ぶ。



広島県広島市：広島県の歴史と文化を学ぶ（世界遺産と観光振興）

第二次世界大戦の焼け野原から立ち上がった広島。希望、平和、そして再生のシンボルへと変貌を遂げた広島県の歴史と文化を学ぶ。



福岡県北九州市：北九州市の公害対策史と環境政策

1901 年の官営八幡製鉄所の操業以来、日本の近代工業化に重要な役割を果たした北九州市。その後、戦後の高度成長期に深刻な公害に直面し、産官学民が一体となって克服した。これら歴史と経験を土台とした先進的な環境政策を学ぶ。

JICA 開発大学院連携プログラムが行う、地域理解プログラムについての詳細はこちらの QR コードからご確認ください

